

# 環境未来都市提案書概要(様式2)

目指すべき将来像【1.(1)】<sup>まち</sup>

【コンセプト】 地域や都市の中で人が輝く、賑わい・安らぎ・活力のあるまち ~公害を乗り越えた経験と持続的に創造するイノベーションを活かして~

【2050年の姿】 ○「環境」を絆に世界とつながり、すべての世代が「真の豊かさ」を感じながら、人間中心の新たな価値を持続的に創造するまち

【2025年の姿】 ○子どもから高齢者まで、すべての世代が地域を中心とした「絆」で結ばれ、豊かな環境のもと、健康で、安全・安心な、質の高い生活を送れる活力あるまち

① 課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類> ①環境-1(低炭素・省エネルギー)

<課題・目標>

- 地域でエネルギーを賢く無駄なく使いこなす都市になる
- 再生可能エネルギーを中心に多様なエネルギー源を持つ都市になる
- 公共交通機関や自転車の利用など環境に優しい交通体系を構築し、低炭素な都市になる

<取組方針>

- 地域エネルギーマネジメント機能を実装した低炭素街区を形成・普及する。
- 産業都市の特性を活かし再生可能エネルギーなど多様なエネルギー源の導入を図る。
- 車中心の交通体系から公共交通や自転車を活かした交通体系に転換する。

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

a.地域エネルギーマネジメント機能を実装した低炭素街区の形成・普及

- (1)北九州スマートコミュニティ創造事業
  - ①新エネルギー等10%街区の整備
  - ②建築物等への省エネシステム導入
  - ③地域節電所を核とした地域エネルギーマネジメントシステムの構築
  - ④都市交通システム等「次世代のあるべき地域社会構造」の構築(見守り・健康管理サービスの取組)
- (2)城野ゼロ・カーボン先進街区形成推進事業
  - ①低炭素型のライフスタイルの取組(省エネ・創エネ)
  - ②タウン・マネジメントの導入(介護、子育て、健康づくりなど)

b.再生可能エネルギー等の導入と普及  
(多様な次世代エネルギーが揃った都市)

- (1)身近な場所への再生可能エネルギー導入促進
  - ①小・中学校や市民センターなど公共施設への率先導入
  - ②市民や事業者向け再生可能エネルギー導入費用の補助
- (2)大規模太陽光発電の導入促進
  - ①工場屋根や公共空間への導入(検討)
- (3)大規模風力発電の導入促進等
  - ①洋上風力発電のFS・実証試験  
J-POWERひびき風力発電所(仮称) など
  - ②風力発電関連産業の集積促進  
(グリーンエネルギーポートひびき)
- (4)次世代エネルギー等に関する導入促進
  - ①新エネルギーに関する研究開発・実証実験(石炭ガス化技術等)
  - ②エネルギーの高効率利用等(スーパーごみ発電等)
- (5)グリーンイノベーション研究開発の推進
  - ①関門海峡における潮流発電の実証
  - ②色素増感型太陽電池の開発 など

c.環境にやさしい交通体系の構築

(北九州市環境首都総合交通戦略の推進)

- (1)主要な公共交通軸の高機能化
  - ①路線バスの高機能化(高速輸送化)
  - ②筑豊電気鉄道の高機能化(車両低床化)
- (2)自転車利用環境の向上
- (3)モビリティ・マネジメントの推進

② 課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類> ①環境-2(水・大気)

<課題・目標>

- 途上国の主要都市を中心に現地の人々と協力して環境改善に取組み、世界に貢献する都市になる。
- 海外の技術者や研究者が行き交う都市になる

<取組方針>

- 環境専門人材の育成を進め、技術移転のキーパーソンづくりと革新的な環境協力の案件形成に取組む。
- 環境関係国際研修のプログラムを増加させ、より広域からの研修の受け入れと、途上国への専門家の派遣を増加させる。

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

a.戦略的環境国際協力

- (1)実践的環境人材育成拠点形成
  - ①アジアの環境人材育成拠点形成を目指し、優れた環境指導人材の育成と新たな研修コースの創設
- (2)戦略的環境国際協力事業
  - ①途上国技術者を受け入れる国際研修の実施
  - ②経験豊かな技術者を諸外国都市に派遣し、現地で技術指導を実施
  - ③国内外の関係機関と協働した調査、情報収集・発進
  - ④各種都市間ネットワークを活用したプロジェクトの実施

③ 課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類> ①環境-3(自然環境・生物多様性)

<課題・目標>

- 市民が多様な自然と触れ合うことができる都市になる
- 多世代の住民が環境保全の取組を行うなど、社会的な連帯感が回復・維持されている都市になる

<取組方針>

- 市民活動による森林保全や街の緑の拡大を図る。
- 市民を中心とする保全活動を拡大し、生物多様性の拠点とする。
- 市内に多数ある環境学習施設を有機的に連携させ環境学習を進める。

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

a.まちの森プロジェクト

~都市と自然の共生を目指したまちづくり~

- (1)環境首都100万本植樹
  - ①「どんぐり銀行」(子どもによるどんぐり拾い、高齢者による苗づくり、多世代交流による植樹)の拡充(空き地や遊休地などの活用)
  - ②街なかのまとまった緑の拠点「まちの森」の整備・八幡東田グリーングリッド事業 など
- (2)里地里山の保全や利用
  - ①高齢者の生きがいと子どもの環境学習に資する里山づくり
    - ・都市住民と農家の協働による訪れたくなる里地里山づくり
  - ②生物多様性・希少種の保全活動

b.豊かな自然を活用した環境人材育成

◇「環境未来都市」推進の原動力となる市民環境力の向上

- (1)ストーリー性のある「環境学習ツアー」の実施
- (2)「環境首都検定」の実施

④ 課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類> ①環境-4(3R)

<課題・目標>

- 高い技術により、レアメタルなど産業活動に必要な資源を確保する資源リサイクル拠点となる
- 時代の要請に応じた3Rの社会システムやリサイクル技術を継続的に生み出す都市になる
- 市民生活において3Rが定着し、産業界では3Rを意識した企業活動が行われている都市になる

<取組方針>

- レアメタルやリチウムイオン電池などのリサイクル技術の開発と回収システムの構築を図る。
- 太陽光パネル(PV)のリサイクル技術の開発と回収システムを検討する。
- 産学官民の協働意識を活かした全市民的な3R推進運動に取組む。

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

a.北九州資源リサイクル拠点の形成

- ◇すべての市民が一体となって、循環型社会の形成に取り組む
- (1)使用済み小型電子機器等からのレアメタルの回収
  - (2)使用済みリチウムイオン電池のリユース・リサイクル技術及びシステムの開発
  - (3)太陽光発電(PV)システムの汎用的なリサイクル技術の開発
  - (4)北九州エコタウンの海外展開
  - (5)市民が一体となった3Rの推進(北九州市循環型社会形成推進基本計画の策定とその実践)

環境未来都市提案書概要(様式2)

⑤ 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ②超高齢化対応-1(地域医療)  
 <課題・目標>  
 ○地域が一体となって健康づくりに取り組む都市になる  
 ○緊急の場合においても、充実した医療サービス(リハビリテーションを含む)を安心して受けることができる都市になる

<取組方針>  
 ○地域住民、専門職、医師会・歯科医師会・薬剤師会、行政等が一体となって、生活習慣病等の予防、健康づくりなどに取り組む  
 ○眼科・耳鼻咽喉科も含め、24時間365日、軽症患者から重症患者まで受け入れることができる救急医療体制の更なる強化を図る。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

a.地域連携による健康の維持・向上  
 ◇地域住民、専門職、医師会、行政等が一体となり健康づくりやリハビリなどに取り組む  
 (1)生活習慣病予防及び重症化予防  
 ①政令市初の慢性腎臓病予防連携システム  
 ②特定保健指導の充実  
 ③家庭訪問等による保健指導の充実  
 (2)「地域でGO!GO!健康づくり」(住民主体の健康づくり事業)  
 ①市民センター等の地域の拠点を活用して地域住民が主体となって健康づくり事業を実施

b.救急医療体制、リハビリテーション体制の充実  
 ◇恵まれた医療資源を活かし、適切な救急医療体制を整備し、市民の安全・安心を確保  
 (1)充実した救急医療体制の構築  
 (2)市民が安心して受診できる体制づくり  
 (3)急性期医療から在宅への円滑な移行

c.障害児者の先進的リハビリテーションの充実  
 ◇「総合療育センター」を拠点に地域医療機関との協力・連携による地域障害児者医療システムを構築  
 (1)重症心身障害児者通園事業  
 (2)障害児等療育支援事業  
 (3)在宅心身障害児者家庭訪問指導事業 など

⑥ 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ②超高齢化対応-2(地域の介護・福祉)  
 <課題・目標>  
 ○高齢者が身近な地域で、自主的に健康づくりに推進する都市になる  
 ○高齢者の知恵や経験を活用することで高齢者が生きがいを持って活躍できる都市になる  
 ○「いのちをつなぐネットワーク」の取組が、地域によって自主的に実践されている都市になる

<取組方針>  
 ○市民センター等、地域の住民に身近なところで高齢者の健康づくりを推進する。  
 ○高齢者の健康や生きがいづくりのため、高齢者の知恵や経験を活用した多世代交流事業を推進する。  
 ○住民と行政の力を結集し、地域で支えあう「いのちをつなぐネットワーク」を充実・強化する。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

a.住民主体の健康づくりの推進  
 ◇地域を中心に高齢者をはじめ住民が主体となった健康づくりを推進する  
 (1)健康マイレージ事業  
 ・健康づくりの取組をポイント化し市民の自主的かつ積極的な健康づくりの推進  
 (2)百万人の介護予防事業  
 ・本市オリジナルの「ひまわりタイチー(介護予防太極拳)」、「きたきょう体操(介護予防体操)」を通じた健康づくり活動  
 (3)公園を活用した健康づくり  
 ・本市独自のハード(公園の広場・健康遊具)とソフト(体操・健康づくり教室)の協働による高齢者向け健康づくりプログラムの実施

b.健康で元気な高齢者をつくる多世代交流事業  
 (1)市民100万本植樹や八幡東田グリーングリッド等による街なかの植樹  
 (2)耕作放棄地や休耕地(里地里山)を活用した多世代交流農園の実施  
 (3)研修を通じた生涯現役社会の環境づくりと地域活動を担う高齢者の人材育成(年長者研修大学校)  
 (4)高齢者の技術や経験、能力や人脈等を活かしながら、退職後も活躍していく人材の発掘、育成し地域活性化を図る(生涯現役夢追塾)

c.地域福祉ネットワーク北九州モデルの充実・強化  
 (1)「いのちをつなぐネットワーク事業」(住民と行政の力を結集した地域の見守り・支援)の充実・強化  
 (2)地域包括支援センターを拠点とした地域ケアの実務者ネットワークの充実(保健・医療・福祉・地域連携システムの推進)  
 (3)高齢化先進都市として培った各種ノウハウや社会システムのアジアに向けた情報発信

d.障害者相談支援体制の整備と地域支援  
 ◇民間団体との連携の下、生活、就労、住まいなど、相談に対応できる体制の強化  
 (1)障害者しごとサポートセンター  
 (2)障害者居住サポートセンター等事業  
 (3)権利擁護・市民後見センター など

⑦ 課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ②超高齢化対応-3(子育て・教育)  
 <課題・目標>  
 ○地域社会全体で子どもの教育に参画できる都市になる  
 ○親が安心して産み育てることができる都市になる  
 ○子どもが「ものづくり」の大切さを自然に身につけ、これを誇ることができる都市になる

<取組方針>  
 ○企業と学校が連携した「義務教育支援プロジェクト」を実施する。  
 ○医療提供体制を充実することにより、安心して子を産み、育てられる環境を確保する。  
 ○高齢者や女性がコーディネータを務める環境学習ツアーなどを実施し、子ども達に環境教育を行う。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

a.「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の推進  
 (1)環境未来都市にふさわしい人材の育成  
 ①環境教育推進事業  
 ②エネスコスクールへの加盟推進  
 (2)地域との絆を結び、世代をつなぐ教育の推進  
 ①スクールヘルパーの充実  
 ②経済界と連携した学校教育の充実  
 (3)いつまでも「健康」でいきいきと生活できる環境づくり(学校教育における食育・体力アップの推進)  
 ①学校における食育推進事業  
 ②体力アップ推進事業  
 (4)特別な支援を必要とする子どもの教育の推進(すべての児童生徒が積極的に社会で活躍できる環境づくり)  
 ①特別支援教育を行う場の整備  
 ②就労支援ネットワークの構築

b.「北九州」元気発進！子どもプランの推進  
 (1)安心して産み育てることができる環境づくり  
 ①総合的な子育て支援施設の運営  
 ②地域における子育て支援ネットワークづくり・子育て情報の発信  
 (2)仕事と子育ての両立支援(質の高い放課後児童クラブの運営)  
 ①放課後児童ヘルパーの設置  
 ②放課後ジュニアリーダープログラムの展開  
 (3)ニート、ひきこもりの自立支援(青少年の健全育成)  
 (4)特別な支援を要する子どもや家庭への支援

c.小児救急医療・周産期医療体制の充実  
 (1)全国に先駆けた小児救急医療体制の充実を図り安心して子どもを産み育てることができる環境づくり  
 ①市民が安心して受診できる体制づくり  
 ②医療機関、関連団体、行政、地域の代表による子どもの健康づくりや安全確保を検討する会議の開催

d.北九州環境みらい学習システム(ESD)  
 (1)子どもを対象とした「環境学習ツアー」の実施  
 (2)「環境首都検定」や「環境家計簿」など子どもも参画でき、生活行動を環境配慮型に改革する仕組みの整備  
 (3)環境リーダーや市民の自発的行動を促す人材を育成する「(仮)環境リーダーみらい塾」の創設

環境未来都市提案書概要(様式2)

⑧

課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ③その他-1(復興支援とリスクの軽減)  
 <課題・目標>  
 ○環境未来都市の取組成果(エネルギーマネジメントやリサイクル等)を活用して東日本大震災の被災地の復興に貢献する都市になる  
 ○我が国全体の危機管理の一翼を担う都市になる  
 <取組方針>  
 ○北九州スマートコミュニティ創造事業の実証で得た成果や経験を東日本大震災の被災地の復興に役立てる。  
 ○北九州地区に日本のディザスタリカバリ拠点を構築する。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

- a.震災被災地復興支援**  
 (1)スマートコミュニティ創造事業などの成果を活用した被災地復興支援(岩手県釜石市)  
 ①「復興まちづくり計画」策定支援  
 ②整備段階での成果移転  
 ③事業フォローアップ
- b.地域が主体となった被災者支援**  
 (1)「絆」プロジェクト北九州(生活の面からの支援)  
 ①地域住民、NPO、行政、社会福祉協議会等が連携した被災者を地域で受け入れ等支援  
 (2)「ものづくりの絆プロジェクト」(産業の面からの支援)  
 ①被災地企業応援登録制度の創設  
 ②資材等の調達SOSサポートデスクの創設
- c.ディザスタリカバリ拠点の形成**  
 (1)震災後、急速に進む情報システムのバックアップニーズへの対応  
 (2)行政及び企業のバックアップに対応するオフィス機能も含めたディザスタリカバリ拠点の形成

⑨

課題・目標・取組方針【1. (2)】

<分類> ③その他-2(国際環境ビジネス)  
 <課題・目標>  
 ○スマートコミュニティ創造事業の実証による製品やエネルギーマネジメントシステムをパッケージ化するなどにより、ビジネス展開する  
 ○民間企業の持つ優秀な技術力と北九州市の持つ事業管理ノウハウをパッケージ化し、海外ネットワークを活用して官民一体となって、アジアで水ビジネスを展開する。  
 <取組方針>  
 ○アジア低炭素化センターを中核とし、企業の環境ビジネスの海外展開を支援する。  
 ○「北九州市海外水ビジネス推進協議会」が中心となり、上下水道の計画から施設整備、管理運営にいたるパッケージビジネスをアジア展開する。

5年以内に実施する取組内容【2. (1)】

- a.アジア低炭素化センター**  
 (1)環境関連技術や行政のノウハウをパッケージ化  
 (2)海外とのネットワークを活用したマーケティング活動  
 ウォータープラザ、スマートコミュニティ、エコタウン、次世代エネルギーパークなどをショールームとして活用  
 (3)企業の環境ビジネスの海外展開支援  
 (4)中国・北京環境交易所との協定に基づく、温室効果ガスの二国間クレジットの仕組みづくりの拠点化
- b.スマートコミュニティ創造事業の海外ビジネス展開**  
 (1)北九州スマートコミュニティ創造事業の成果(エネルギー関連製品とエネルギーマネジメントシステム)をパッケージ化し、海外にビジネス展開
- c.官民連携による海外水ビジネスの展開**  
 (1)企業の技術、製品と本市の上下水道の管理運営ノウハウをパッケージ化しアジア市場へ輸出  
 (2)「ウォータープラザ北九州」をショーケースにした水のベストソリューションの提供
- d.環黄海ACTION**  
 (1)日中韓10都市の協力関係基盤を活用し、貿易と投資を中心とするビジネス環境を改善

複数の課題・目標を一体的に進める事項(相乗効果や副次的効果についての簡単な解説を含む)【1. (3)①】

- ・「①環境-1、①環境-4、②超高齢化対応-3」  
 (子どもの頃からの学校のみならず生活の中で、環境教育を実施することで、省エネルギーやリサイクルへの関心の高い市民が増加する。これにより、エネルギー問題の解決や3Rの拡大等の相乗効果が発現する。)
- ・「①環境-2、③その他-2」  
 (環境国際協力を進めることで、アジアをはじめとする諸外国に北九州市が持つ技術力の高さをPRするとともに、相互の信頼関係が構築される。これにより、国際環境ビジネスチャンスが拡大するとともに、ビジネスがスムーズに展開されるという相乗効果が発現する。)
- ・「①環境-3、②超高齢化対応-2、②超高齢化対応-3」  
 (豊かな自然環境、多様な生物の存在は、人の心身を豊かにさせる。この環境の実現は、高齢者の健康維持や子供の健全な発育に大きく寄与するという相乗効果が発現する。また、豊かな自然環境の創造の過程で構築される多世代の交流は、高齢者の生きがい、子どもの敬老意識の醸成につながるという相乗効果が期待できる。)